

【刊夕】日七月一

# 常磐每日新聞

定部金貳錢 一月五錢 三月一圓 半年一圓七角 一年三圓

廣告料五錢 三行一圓 五字一圓 十字一圓 二十字一圓 三十字一圓 五十字一圓 一百字一圓 二百字一圓 三百字一圓 四百字一圓 五百字一圓 六百字一圓 七百字一圓 八百字一圓 九百字一圓 一千字一圓

發行所 常磐每日新聞社 印刷所 常磐印刷株式會社

社址 常磐市 電話 三六三〇

## 一九三〇年の「磐城文壇を顧りみて」

片寄歌 二

昨年度の磐城文壇を清算して見る、昨年の磐城文壇は確かに沈滞と不振とに終始したと云つて宜からう。一昨年も不成績であつたけれど之程でもなかつた。比較的左翼陣營が大いに振ひ雄野勇氏の詩集「顔と樹」代是夫氏の「直線の町」等を残した外に、「巡邏船」「喇叭」「一九三〇年」の發刊など、かなり目覚ましい活躍が見られないでは無かつたが、昨年は顧りみて何一つ記憶に残るものがない淋しさを感じる。過渡期に於ける沈滞か、左翼陣營の無氣力か、總決算に現はれた統計を見ると非常な不成績であつた。

ひとり「一九三〇年」が大いに氣を吐いてゐたが、それも燈火の滅せんとして一時の明るさを加へた様なものであつてプロレタリア派藝術の樹立には、甚だ縁遠いものであつた。評論としても、昨年の様に白兵戦を交へる様なあんな活氣のある現象は到底見事が出來なかつた。たゞ島田忠夫對福田將夫兩氏の論戦があつたのみで、これとても自分の勢力なり主張なりを扶殖するにのみ専念で、余りに勝手氣儘な氣焰をあげ、相手の虚を突き揚足を取り、互に野卑亂暴な辭令を交換し、みにくい争鬭振を發揮し、冷嘲惡罵の限りをつくし、論評家としての所謂邪道に落ち入り、無價値を遺憾なく曝露したに過ぎなかつた。

鳥田氏は最初より抹消すべきであつたと思ふが、セレクシメント的にやつたと非難されても否認する事は出來まい。次に詩壇としては、殆んど收穫がなかつた。現在の磐城文壇を支配するのは中堅であり、その中堅を詩人が約八割をしめてゐる、その詩人達が不振と沈黙をなしてゐるのが昨年の磐城文壇の不振と沈黙をもたらした最大の原因であると言ひよう(つゞく)

### 新年文藝選外佳作

- 俳句 渡邊何鳴選
- 平 鈴木源一 白足袋に泥一点や若菜摘む
  - 平 鈴木喜佐 春着人輕き裳を蹴る如し
  - 平 渡邊武門 脱ぎ捨てし春着まばゆき座敷かな
  - 平 草野知代子 雪解けし土のぬくみや若菜摘む
  - 小高 紺野 鬼子 若菜摘む母と娘とよりそひぬ
  - 小高 半谷 綾子 若菜もろし器食しく集ひ覺
  - 小高 鈴木さだは お雑煮の中にもしるさ若菜かな
  - 小高 鈴木 瑛女 御灯明に板の間廣し若菜粥
  - 好問 金成 上鶴 春着人常らしく縁に縫ひるたり
  - 中村 武石 三羊 よりそうて二つの影や若菜摘む

は今評判の山崎に  
深刻な不景氣の折柄買入人の身になつて良い品を特價にて提供致します

修繕物は特に丁寧迅速破額を以て御用に應じます

親切な店 堅い店

### 山崎時計専門店

(五丁目新川町通り 吉田屋染物店前)

電話 五七五番へ

お壽司の御用は、

### 平三玉壽司

磐城土産 鯉節と鹽から



## 魚問屋

最優 最志 最平 賀目 大代 日理 本店 生榮 榮番 三一二

配達敏速

レコード破りの石炭大廉賣

磐城炭礦 正味十貫匁 一俵金卅錢也

品が良く「値は安く」をモットーとする當店は此度破格の格安石炭を販賣開始致します

値が安くとも品は悪くはありません

磐城炭礦の處分的大堀物です、品物の無くならない中に御注文下さい

配達は一俵より致します

御注文は

電話二三七番へ

阿部石炭商店

## 市原醫院

平町田町(電話一一四番)

内科、小兒科 市原卯太郎

外科一般、婦人科 市原陸郎

外科、梅毒、淋毒 市原三三男

入院隨時

## お醤油は ヤマフル

醤油味噌 たひら 正宗 鯉節 食料品

鹽屋 山崎合名會社

福島縣 平町 電話(營業部)一〇番 (醸造工場)二七番

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病

腸胃病 腸胃病 腸胃病

門專 院醫科 院醫科 院醫科

七〇一話電 町南平

### 多分に社會政策的な色彩を加味した豫算

どの程度迄實現するか  
町長が裁斷のメス

平町の本年度に於ける新事業は年頭早々各課提出の要求豫算に依つて伏見町長が裁斷のメスを下さる筈だが新豫算編成の目安は前年度豫算三十萬圓を踏襲し内容に於て多分に社會政策的色彩を加味する處に幾分の新鮮味と切り盛り苦心がある譯であつて炭礦地元町として伏見町長腹案の簡易食堂並に簡易宿泊所の町營が問題視されてゐる公益質屋と共にどの程度迄實現するか、興味ある處であつて此の種の新事業が上程される時は當然各種補助消耗品費の如き大削減を加へられる筈である

### 自動車訓示

八日平署にて  
平署管内自動車營業者は八日同署會議室に召集午後一時から桎村署長の規則改正に關する訓示ある筈

### 抗爭が解決

大浦消防の問題  
石城郡大浦村に於ける消防組の紛糾は大字大森部落の全消防が辭任し義勇消防隊を新に組織し昭和三年より今日迄兩者が抗爭に抗爭を重ねて來たがその間水谷前四倉署長を始め地方有力家

問題もここに全く解決するに至つた

### 優良徒弟表

理髮組合總會で  
平署管内理髮業組合は十七日午後一時から同署會議室に總會を開き優良徒弟の表彰等ある由

### 傳染病患者

平町昨年中の  
平町に於ける昨五年中の傳染病患者は腸チフス二九、死亡四、赤痢一三、死亡二、疫痢一、死亡八、猩紅熱五、デフテリア二七、死亡二である

### お互に自覺して 景氣良く暮さう

飯野村の實行規約  
必需品は何でも自給自足

石城郡飯野村ではこの新たな一年を村民がお互に自覺して景氣よく裕福に送らうといふので左のやうな實行規約を定めポスターを各戸に配布した

### 柳田を捕縛する迄

大魔色の師斯詐大  
柳田を捕縛する迄  
▼本名 青木由五郎(前科三犯)  
▼原籍 神奈川縣浦賀町  
▼平地方にての偽名柳田辰五郎  
▼房總地方にての偽名森本友三

根本殺一

汽車は愈々進んで「なには」「おんじゆく」變な名前「ステーション」を過ぎる。

と。憤然として汽車を降りた。ともあれ駐在所へと云ふので約五丁程して駐在所に着く。幸ひにして駐在所の岡野さんが御在宅であつたので。

「實は私共は本日福島縣から態々來ましたのですが、御地に森本友三なるものが居るとのこと。それが如何にも昨年末から本年二月にかけて。之々云々の詐欺を働いた柳田辰三郎なるものに似て居るので其の首賞檢旁々。若し其の本人であつたら。警官の應援を得て捕縛してしまひたい。存じまして突然參りましたのです人相風姿斯んなものですが如何でせう。御心當りはありますまいか」

### 文藝募集

實はこの七月頃から此地に入つて來たのですが。その頃は此の地へ東京を始め諸々方々から海水浴客が入つて來ますので。中々調べが就きませんのです。其の内に當地の佐久間鐵工場の主人が前からの知り合ひでもあるらしく。頗る信用として居るし住居も佐久間の世話でその近所へ定めて。家内と云ふのは確か八月頃迄は居りましたが。今は東京の姉の所へなにか手傳をして居るとか。居りませんがね」

御待ち兼ねの別府淋藥が着荷致しました、リン病やコシケに苦まる方は一日も早く試して全快のよろこび見て下さい  
無効返金藥(二日のんでキ、メなき時)無効返金證  
岩里リン病別府淋藥 服用者大好評  
別府温泉で名高い岩里家の家傳秘藥  
人迷はせの賣藥の如き中に別府市中濱(岩里天然堂大藥房發賣)のリン藥は古來家傳秘藥にして男女血ウミ痛、コシケ、消渴、二日中止り連服するも絶對胃腸障害なき名藥である、尙同藥は責任ある速効藥にして二日内服効なき時は殘藥引替に全部異議なく返金す急性慢性悪性治らぬ人は七日のまれよ申込次第新品送藥す  
淋病治療書數十頁の美本無代進呈  
藥價(急性)慢性(頑固悪性)用(黒箱)一週分參圓(赤箱)一週分五圓  
平古鍛冶町(電話四四番)一手特約店 阿康藥舖

専門眼科醫師擔任  
無料檢眼 無料檢眼券 御利用下サイ  
TOKIWAYA  
信用アリ正確味萬點ノ時計 御客様本位ノ眼鏡部  
常盤屋時計店 電三三九

耳鼻咽喉科専門  
氣管食道科  
大和田醫院  
平南町(舊診療所向)電話一七〇番

# 炭礦界に活況を呈し 各驛大いそがし

## 移送貨車六百五十車を突破

### 明日平驛で対策協議

久しく沈滞して居た常磐炭は舊臘來から採炭制限の結果として需要期に東京信州方面からの注文殺倒して活況を呈した、この好況は本年に入つても持續し鐵道省關係の商用炭は採炭に追はれ反つて供給不足を訴へる等の状態となり各炭礦もホク／＼して居る一方

### 常磐炭 取扱各驛では

移送貨車が激増し常磐線、磐越東線を通じて六百五十車を突破し収入も激増し大忙を極めて居るがこれに就いて八日午後一時から右各驛長が平驛に集合しての期にあたり

### 移送上

に萬遺憾なきを期すべく協議すると

## 四季一律の制限は

### 致命的な打撃と

#### 茨城無煙炭が反對

#### 出炭制限の前途注目さる

舊臘中常磐五大炭礦の販賣機關たる木曜會より有無煙小炭礦全部に向け炭價維持向上のため出炭制限に關する

### 交渉を試みたること

は既報の如くであるがその後茨城無煙側より始り冬期需要にのみ頼る我々にとつて四季一律に制限を加へることは致命的な打撃であつて到底承服することが出来ぬと強硬なる反對

### 意見を唱へたので、

木曜會では今更ながら狼狽し折衷案として一制程度の制限案を提示して妥協を求

### 秘密に

#### 貧者に恵む

#### 神谷の村長

石城郡神谷村長佐藤久三郎氏は就職以來毎年自資を投じ舊年末に當つては駐在所

## 金馬簾授與

### 神谷村にて

石城郡神谷村消防組にては昨日午前十時から同村小學校に於て金馬簾二條の授與式を舉行榎村平署長臨席した

## 少年火防隊

### 昨日發會式

石城郡鹿島村少年火防隊は昨日午前九時から同村小學校に於て發會式を舉行した

## 拘留中の少年泥

### 續々と餘罪發覺

舊臘二十九日午後一時ころ石城郡夏井村大字上大越地内に徘徊中の

擧動不審の男を平署では浮浪者として七日間の拘留に處し取調中の所同人

は本籍新潟縣北蒲原郡新發田町字西加輪住所不定早川新平(三)といひ昭和五年九月三十日午前十一時ころ石城郡平町五丁目釜屋の店先

### 明日のラジオ

八日

- 前七〇〇 ラヂオ体操
- 前九〇〇 氣象通報
- 前九〇〇 ニュース
- 前九〇〇 料理献立「榮養味噌」松本嘉一發表
- 前一一〇〇 家庭講座(一月十日まで休講)
- 正午 時報
- 後〇〇〇 浪花節 敷島大藏
- 後〇〇〇 ニュース
- 後二二〇 運動競技「ラグビー蹴球試合状況」大阪府花園(グラウンド)より

### 今晩は北の風

日は北東の風曇りがち

### 歌二、齊唱(尋五山下登江外三名)

- (イ)青葉の笛
- 文部省唱歌(ロ)フリージヤ
- 弘田龍太郎作曲(三)獨唱(尋二下久保幸男)
- 大黒様文部省唱歌(ロ)奈須與一(尋四原野子)
- 唱(尋四原野子)
- くれば(法月歌客作詞)
- 井上武士作曲(ロ)梅の枝
- 野口雨情同中山普平作曲
- (イ)針店のお客(葛原しげる同杉山はせを作曲)
- 五、齋唱(尋六坂井貞枝)
- 外三名(イ)のさ(霜田史光作詞室崎琴月作曲)
- (ロ)川邊に立ちて(ハチソン作曲)
- 後六、三〇 文藝講座名作のグリムプス(三)昇曙夢

## 火宣傳映畫

### 管内を巡回

平署管内火宣傳映畫は八日から一週間各所を巡回公開する由

## 平署寒稽古

### 武道始めも

平警察署では八日から二週間寒稽古を行ふ筈であるが十日武道始めを舉行すると

## 無鑑札で

### 古物商を營む

平町田町三八平崎竹弘(三)は無鑑札で古物商を營んで居た事が發覺平署に告發された

## 中村便り

中村消防組にては六日御親閲記念日をトして出初式を舉行午前八時中村神社參拜町内の安全を祈願し二の丸に於て規律訓練を爲し町内一周して放水試験及び火防奮闘を執行、別動隊は原釜へ行進、火防組合員の消火栓使用實習、中村火防組合發會式等あり出初式にては町長の式辭、署長の訓示、來賓の祝詞、宗像組頭の答辭あり午後三時より新開座に於て宴會を催した

### 歌二、齊唱(尋五山下登江外三名)

- (イ)青葉の笛
- 文部省唱歌(ロ)フリージヤ
- 弘田龍太郎作曲(三)獨唱(尋二下久保幸男)
- 大黒様文部省唱歌(ロ)奈須與一(尋四原野子)
- 唱(尋四原野子)
- くれば(法月歌客作詞)
- 井上武士作曲(ロ)梅の枝
- 野口雨情同中山普平作曲
- (イ)針店のお客(葛原しげる同杉山はせを作曲)
- 五、齋唱(尋六坂井貞枝)
- 外三名(イ)のさ(霜田史光作詞室崎琴月作曲)
- (ロ)川邊に立ちて(ハチソン作曲)
- 後六、三〇 文藝講座名作のグリムプス(三)昇曙夢

### 後七、〇〇 ニュース

- 後七、二五 趣味講演「趣味のラグビー漫談」春日俊吉
- 後八、〇〇 ギャイオリン
- ギター二重奏(ヴァイオリン前田磯ギター大河原義衛)
- 後八、三〇 新内「關取千兩轍」(淨瑠璃)富士松加賀太夫富士松綱太夫(三味線)富士松龜三郎(上調子)富士松鳴門太夫
- 後九、〇〇 連續講談「笹野權三郎」(第一)大島伯鶴
- 後九、四〇 時報全國ニュース氣象通報 氣象通報告知事項

## 高久病院

院長 醫學士 高久 忠  
副院長 新潟醫學士 赤羽 清  
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄  
平町田町 電話五二三番

内科小兒科 外科花柳病科  
耳鼻咽喉科 レントゲン科

## 木村外科醫院

花柳病科專門  
入院自炊の便あり  
平町五丁目橋際  
電話三〇九番



捕物覺え

東京 橋場鮎刺 (采田安藏書)  
 其の語半へ、小僧の竹松が、  
 くなつて飛込んで来た。  
 「目撃大驚……」  
 「一同の眼は小僧の上に降り掛る  
 番頭の半三郎と云ふが、  
 「竹松、何うした何が大變だ」  
 と、さうに言つた。  
 「最後の捕物……」  
 「ナニ最後の捕物……」  
 「一同は青い顔をして驚くした。  
 夜更けて各々床に入った。  
 翌日も例の松川びしの定数は、  
 家の前を三度行つたり来たたりし  
 た。誰も見られぬと云ふので、  
 不安の雲は日野屋の家の内に  
 満ちたものである。

と出て、人見を睨んでステタ  
 今川の方へ行つたと云ふ、何う  
 して最後の捕物だと思つた、黒い  
 布で覆面をして二本登した奴は、  
 昨日三人も五人も見掛ける、最後  
 の奴と極めるには、何かがある  
 かと云ふと、今日た奴が昔中に松  
 川びしの奴があつたから、夫に遠  
 ひないと答へる、言はれて見れば  
 松川来た人物、五ツ紋の黒木綿の  
 衣服、松川びしの奴があつたに相  
 違なかつた。  
 「竹松は年に似合はず、目走が  
 利く、能く然り云ふところ迄気が  
 注いた」と主人周右衛門が小僧は  
 感して更におびえを強めた。  
 其時は各の如く小田原談で、  
 何うしと云ふ工夫も驚かすに、  
 夜更けて各々床に入った。  
 翌日も例の松川びしの定数は、  
 家の前を三度行つたり来たたりし  
 た。誰も見られぬと云ふので、  
 不安の雲は日野屋の家の内に  
 満ちたものである。



其時は又々一四時合を言けた。  
 結局二時合の捕物だと思つた、  
 男で、黒い布で覆面をして、金  
 十兩とまり、其は何と云つても  
 出さない、昨日主人は三日  
 捕物の方へ、おびえが好いと  
 言つた。

行く心残りだ……」と云ふに  
 のは母のおしである。  
 「ハイ、おし、おし、おし、おし、  
 来へは去年の秋、おし、おし、  
 うで無くて、おし、おし、おし、  
 熱に似たと云つた奴で、おし、  
 つか……」  
 「直に支度をしては何うだね、  
 別父さんもおし、おし、おし、  
 から……」  
 「おし、おし、おし、おし、おし、  
 ります、今日は十七日、おし、  
 ですからおし、おし、おし、  
 るおし、おし、おし、おし、  
 おし、おし、おし、おし、おし、  
 の女中、今年二十六にもなる、  
 却、おし、おし、おし、おし、  
 心して。

「然らね、月の十七日は、  
 誰かした事のないおし、おし、  
 御事は有るものだから、私は其  
 十七日を忘れて居たよ、おし、  
 からおし、おし、おし、おし、  
 おし、おし、おし、おし、おし、  
 言付けて置いて、おし、おし、  
 心して。  
 「おし、おし、おし、おし、おし、  
 何の用かと聞いて見ると、おし、  
 さんのおし、おし、おし、おし、  
 にもおし、おし、おし、おし、  
 明になつておし、おし、おし、  
 又おし、おし、おし、おし、  
 に、おし、おし、おし、おし、

内科・小兒科・花柳病科  
**藤沼醫院**

入院需應

平町紺屋町  
 電話五〇七番

子宮病血の道の方は左記の良薬をお用えになれ  
 ばラクに自宅で退治出来ます



子宮 美神丸  
 美神湯  
 (服薬血の道薬)

一手特約店 平町古鍛冶町  
**阿康薬舗**  
 電話四四番

江戸前 季節 寄納  
 鳥料理 かば焼

相始めました、皆様の御來駕  
 をお待ちしております

平館隣り  
 魚 榮  
 電話四二四番

美佐男御召と  
 優秀銘仙陳列特賣  
**三井呉服店**

健胃 固腸  
 小野常治謹製  
 各種 体温計  
 寒暖計  
 電話四〇番

外科  
 内臓外科 醫學士  
 整形外科 松永憲一  
 外科一般  
 平新川町十九  
**木村病院**  
 ◇産婦人科院長從前通り診療

て總は命用御の物刷印  
 番〇三六話電 會社刷印日每警常

専門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します  
 往診 呼吸器病ばかりではありません  
 平町南町六五(元大和田耳鼻院跡)

川井内科診療所

醫學士 川井重之  
 女醫 川井安子  
 電話一八一番

子宮病が根治する  
 元祖家傳の子宮  
 坐薬として名聲噴々たり  
**女寶丸**  
 歴史に古く學理に新ら  
 しい著しき効果  
 子供の出来る名薬

特約代理店 市原商店 平一丁目電話二四四番

セメント  
 壁用材料  
 コールタール  
 ペンキ塗料  
 板ガラス  
 磐城セメント株式会社  
 代理店 **西村屋薬舗**  
 平町二丁目電話三